

氏名	高本 篤
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 5 7 7 6 号
学位授与の日付	平成30年6月30日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	The oncological impact of neoadjuvant hormonal therapy on permanent ¹²⁵ I-seed brachytherapy in patients with low- and intermediate-risk prostate cancer (低・中リスク前立腺癌に対する前立腺密封小線源永久挿入療法の対する術前内分泌療法の腫瘍学的治療効果の検討)
論文審査委員	教授 吉野 正 教授 土井原博義 准教授 平木隆夫

学位論文内容の要旨

前立腺癌に対する前立腺密封小線源永久挿入療法 (LDR) は局所限局性前立腺癌に対する確立された治療方法の一つである。LDR 施行前の術前内分泌療法 (NHT) が LDR の腫瘍学的治療効果に与える影響について検討をおこなった。対象は 2004 年 1 月～2014 年 11 月に岡山大学病院泌尿器科で LDR を施行された成人男性前立腺患者 564 例中、NCCN のリスク分類で低リスク、中リスク群でかつ観察期間が 2 年以上の 484 例とし、生化学的再発率 (BRF survival rate)、臨床的再発率 (PFS rate)、癌特異的生存率 (CSS rate)、全生存率 (OS rate) を計算した。低リスクは 259 例で、中リスクは 225 例であった。観察期間の中央値は 71 ヶ月であり、NHT は 188 例に行われていた。5 年と 10 年の BRF survival rate は非 NHT 群で各々 92.3% と 72.3%、NHT 群で 93.7% と 77.0% であり、両群に統計学的有意差は認めなかった ($p=0.248$)。また、低リスク、中リスクで各々、非 NHT 群、NHT 群で解析を行ったが、両群に有意な差は認めなかった ($p=0.849$ と $p=0.189$)。多変量解析では、Gleason Score、術前 PSA、clinical T stage、D90、positive core rate が独立した予後予測因子である一方、NHT の有無は予後予測因子とならなかった。低、中リスク前立腺癌に対する前立腺密封小線源永久挿入療法において、術前内分泌療法は腫瘍学的治療成績には寄与しなかった。

論文審査結果の要旨

本研究は前立腺密封小線源永久挿入療法 (LDR) の施行前の内分泌療法 (NHT) の影響について検討したものである。対象は 2004 年から 2014 年岡山大学泌尿器科で LDR を施行された 564 例中、NCCN のリスク分類で低、中リスクで観察期間 2 年以上の 484 例を対象とした。NHT は 188 例に行われていた。5 年と 10 年の生化学的再発率は非 NHT 群ではそれぞれ 92.3%、72.3% で、NHT 群では 93.7% と 77% で有意差はなかった。また、低リスク、中リスクでの同様の検索でも有意差はなかった。多変量解析では Gleason スコア、術前 PSA、clinical T stage などが独立した予後予測因子であったが、NHT の有無は予後予測因子とはなかった。実験の目的、手法、結果とその解釈とも適切になされており、LDR 前の NHT に関する重要な知見を得たものと評価される。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。